

授業科目名	助産と薬理 <i>Pharmacology for Midwifery</i>					担当教員	柳原 延章				
開講年次	1年後期	セメスター	2			時間数(単位数)	15(1)				
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義			使用教室					
授業の目的	女性のライフステージ、妊娠時における薬物動態の基礎、正常周産期の妊産婦および授乳婦のケア、そして産科救急に必要薬品の薬理作用の知識を習得する。さらに、受胎調節実地指導に必要なピルを含めた避妊薬の知識を習得する。										
到達目標	1. 妊娠週数ごとに、妊婦にかかわる薬物療法の概要を説明することができる 2. 経口避妊薬、ホルモン補充療法の概要を説明することができる 3. 新生児に対する薬物療法の概要を説明することができる										
DPとの関連	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6 (保健)	DP6 (CNS)	DP7 (CNS)	DP6 (助産)	DP7 (助産)	DP8 (助産)
									○	◎	○
授業計画	1回 産科で使用する薬剤について学ぶために、妊娠週数と薬物の影響（九州東邦株式会社・高橋浩二郎） 2回 妊娠中に用いる薬剤（九州東邦株式会社・高橋浩二郎） 3回 妊娠中に用いる薬剤の実例（九州東邦株式会社・高橋浩二郎） 4回 続発性無月経とホルモン治療（柳原） 5回 経口避妊薬、ホルモン補充療法（柳原） 6回 国試問題とまとめ（柳原） 7回 新生児に用いる薬剤（柳原） 8回 授乳に影響を与える薬剤（柳原）										
学習方法	授業内容について、講義およびプレゼンテーション、ディスカッションを通じて理解する。いくつかのテーマに関して、事前課題を提示する。その課題レポートおよび、講義を合わせて理解し、考察を行う。 最新の医薬品情報を適宜収集・確認する習慣を身につける。										
オフィスアワー	yanagin@med.uoeh-u.ac.jp（柳原） t-kojiro@kitakyu-hp.or.jp（高橋） まで、アポイントをとってください。										
テキスト	指定しない、適宜、資料を配布する。										
参考文献	松田静治：妊婦と薬物治療の考え方—投与時の注意と禁忌全面改訂第2版。東京，ヴァンメディカル，2004。 Gerald, G.Briggs, et al.: Drugs in Pregnancy and Lactation: A Reference Guide to Fetal and Neonatal Risk 8thEd.. Lippincott Williams & Wilkins, 8. 日本産科婦人科学会・日本女性医学学会：ホルモン補充療法ガイドライン。東京，日本産科婦人科学会，2012。 日本産科婦人科学会編：低用量経口避妊薬の使用に関するガイドライン改訂版。日本産科婦人科学会雑誌，58（3）：894-962，2006。										
評価方法	筆記試験（80%）、授業参加度（20%）										